

はぎにあひて、ころさるゝか、かたりにあふて一跡をとらるゝか、旅籠や、渡しぶね、所々で損をする事多し、旅には第一、薬をたしなみ、煩ひをふせぐを肝要とす、菓冷水むざとしたる食物をつ、しむべし、夏旅の霍亂は多くは食傷よりおこるなり、あやしき人に道づれして、ひとつ宿にとまりて、荷物をすり替られ、寝たる間だに、とりにげにあふ事あり、夜ふかく宿を出ぬれば、山だち辻切の氣づかひあり、宿につきては、家の勝手、閑道の要害、見おくべし、座敷の壁に荷物をよせかけておくべからず、疊のおちこみて、やはらかなる所あらば、疊をあけて是をみよ、蚊帳の内ならば、かたわきに立より、壁にそふて臥すべし、夜盗入て、つり手をきり、おしつゝ、む時の用心なり、宵にねたる所をば、わきへ替て寝なをれ、太刀かたなは、柄口をわが身にそへておくべし、遊女にたはれて、金銀をぬすまるゝな、たとひよぶとも心ゆるすな、さて道中第一の用心には、堪忍にまさる事なし、船頭馬かた、牛遣などは、口がましく言葉いやしう、わがまゝなる者なれば、是にまけじとする時は、かならず大事のもとひとなる、今錢二三文をたかくつかへば、萬事はやくと、のふなり、扇笠、きんちやくも、たかき所におくべからず、わすれやすきものなり、旅飯錢は宵に渡すべからず、朝たつ時にわたすべし、錢をかふには、金銀を手ばなし、人をたのみて、つかはしぬれば、あしき銀にすりかへらるゝ事あり、しるしをみせて錢をとりよせ、其後にわたすべし、道の右左に神や佛の堂社あらば、手をあはせ心に念じてとをるべし、まもりの神となり給ふ也、まだ此外に色色の事どもあり、後には合點ゆくべし、○申いざや道づれになり、道々かたりてのぼらんとて、うちつれ立てぞのぼりける、

〔日本行脚文集〕行脚の覺悟として、自戒自慎の誓語して首にかけし條目、

一 不惜身命を思定、今日切の境界、無常迅速夢幻泡影忘るまじき事、

一 色欲、身欲、名聞欲を可離事、附 僣慢心可慎事、